

御

風

機

式

全

御風機式



神維新を業する所の居るものありは有る  
 道にまじりてはしむるありは又性業の業識より  
 方ぬはしむるありは後の業が業を忙しむる  
 中にも物事の隙にまじりて業の業の業を  
 夕陽の初言の初言の中に初言の初言は  
 神の業の業の業の業の業の業の業の業  
 解和帝位候と云く道の道の業と云  
 明治十年の業の業の業

清恩禮式

朝夕日拜ニカヒ又ハ神ニムカヒ手ヲニツ拍ウチ  
 一礼シテコレヲ唱ウタフベシ

人々常ニ罪ヲ作ル意ハナクモソノ機ニ臨ミ復ニ應ジテフ  
 ト腹ヲ立人ヲ恨ミ或ハ深節ニ云フコトヲ疑ヒテ氣ニカケ  
 悋氣嫉妬ヨリ罪ナキ人ヲモニクミナドスルハ我心ノ迷ハ  
 ヨリ起ルコト故ソノ曇リタル罪ヲ拂濯ギ清ク改ルコト  
 清く息ひく息はた大なる息は妙なる王

清く息ひく息はた大なる息は妙なる王

あわれむ身も神も天地八方も光て心空也

夜昼呼吸息ヲ吾物ト思フハ甚ク心得ナガヒニ參神ヨリ

分魂ヲイタビキテ有ユヘ元ノ父母ノ出入息ヲ通ハセテ下

鳥獸魚虫艸木ノ類マデ御ヤシナヒ天下一氣ノ大ナル息ハ奇

妙トモ云ツクシガクモ万国ノ真柱ナレバ私欲自恣ノ小キ姑

息ヲ止テ天地へ貫キ四方四隅へ行ワタリ世ニ光テ万民ヲ親

子兄弟ノ如クシタシムツミ国ヲ思ヒテ私心ヲ空ニスル

を津神笑臨いばりみたま成幸へる也

開闢ノ參神ヲハジメニ靈天照皇大御神皇孫其他天地ノ

神祇并神武天皇ヨリ御代々ノ天子様方我氏神産土神等

ニ至マデ押ナヘテ遠津神ハエミタマハ御機嫌ヨクニコクワラヒ

玉ヘニ威嚴ノ御靈ハ日輪御光明ノミイキオヒ土ノ中水ノ底マデ

モ透リ一昼夜間ニ地球万国ヲ御照シ人間万物ヲ養育シ玉

御勢氣ノ嚴カナルヲ又ハ神明ノ御威徳ノ嚴重ナルヲ云幸

タマヘハ天ガ下ノ万民安クオダヤカニイトナミノデキルヤウニ

尊キモ車キモ一統ニヨキヲ授ケタマハレトネガフ言バナリ

寶祚之隆當與天壤無窮矣

天子ノ御血統益盛ニ成天地ト共ニ打續キ幾万歳ト云  
究リナシト云一ノ天孫天降在寸皇大神ノ御祝ヒ言葉ニ  
あきつこ おやりのあまを、こたすのあま

天津御祖天孫の恩頼と畏きて頂きをなす

天ノ御中主高皇産靈神皇産靈神等ヲ元ノ父母ト称シ奉リ人間ハ勿論生類一体ヘ分魂ヲ御授ケ出入ル息ノ御番ヒニテ御輔ケ下サレソレクノ食物ヲ賜ハリワケテ人間ヘハ四季ノ衣類住家器財ホヲ御授ケ一載海山ニ生育万品ハ悉人間ヘノ賜物ナル深キ御恩頼ヲ些モ疎カニ思ハス日々畏ミ惶ミテ頂戴奉ルベシト申一ニ

皇子善仁親王明宮様御安泰御生育奉祝詞

是迄皇子達幾方モ御降誕程ナク崩ジ玉ヒシ故此度ハ恙ナク生育給フ様實行社ノ輩神祇ヘ希奉ル祝詞ニ

掛卷も畏き天津御祖天孫の恩頼と畏きて

我々が口ノ端ニ掛テ申上ルハ恐多キナガラ參神ノ元ノ父母ノ分魂ヲ皇后様ノ御胞ヘ御授ケ賜テト申一ニ

明治十餘二年八月二十日余一と云日生出在

皇子健小生育せ給ひ

年月日ハ本文ノ通り  
余ハアマリト云フ

アレイデマシ、ハ御生レ出遊バサレシースクヨカハマメヤニ  
御成長アソバスマウニト願フ心ニ

常磐小望岩に天津日嗣海し給ふ

常磐ハトコシヘ氏云テイツモ替ラヌカキハ堅岩ハカタキ岩ノ  
如ク雨風ニモ刃物ニモ傷マヌ大丈夫ナル天津日嗣ハ  
瓊々杵ノ尊ヨリ以来皇統連綿ト御ツギキ遊バスコト  
シロシメスハ御仁政ヲ施シ御世ヲ治メ玉フニ

天津神國埤祇昔夜の守り護り

幸玉

天地ノ神祇等モ前件申通りヲ夜昼共ニ  
御守リ幸ヒノ有ルヤウニト願フ意ニ

畏くもさびのみ満はくともをす

賤シキ下民ノ身デ重キヲ申上ルヲ恐レ慎ミ惶ミテタ  
一スチニコヒネガヒ奉ルト申フニ

是ハ實行社中ニ限ラズ社外ノ人ニモ示シテ一人モ多ク  
供々ニ唱ヘテ希上度フニ

# 敬信豫言

ツ、シミウヤマヒテ心ヲ誠ニシ末々ノ  
マデヨク悟リアラカシメ言ノコシ置テ

# 謹て惟ね

邪ノ心ヲ去胸ヲ清クシテ人ノ行フベキ  
道ヲヨク考へ思ヒミレバト云一

# 道祖尊師の

肥前長崎長谷川久光ト云人應仁前後ノ乱  
世ヲ歎キ泰平ヲ天ニ祈リ夫婦共願行ヲ

勤メテ満願ノ夜北辰胎ニ入ト夢ミテ後孕リ天文十一年  
正月十五日御誕生有テ幼名竹松ト云後ニ藤覚ト改メ又  
角行真人ト称奉ル父母ノ命ニ依テ十八歳ヨリ泰平ノ願  
行ニ志シ諸国高山及八湖八海ニ身ヲ瀑シ不二ノ白糸人

# 言遺了終心以垂示

越前ノ齋藤助盛ヲ大法  
下野ノ黒野運平ヲ日珥ト

穴ニ入テ一万八千八百八日ノ大行ヲ御勤メ不二ノ麓ヨリ  
峯迄登ル道ヲ開キ頂上ヲ回リ始メタル道ノ大祖ナリ昔  
日本武尊登山シ玉ヒ後ノ小角杯モ登リシ趣説アレ  
峯マデ昇ニテ詳ナラズ道祖御難行ノ功モ不二ノ高サニ

云此兩門弟へ道祖ノ御示シ置レシ御遺訓ノ書ニ云一ニ

# 不二山は天孫の所乃御座所

万国ノ中ニ我日本  
ヨリ尊キ国ハアラジ

人体ニ譬言レハ皇国ハ首各国ハ手足胸腹肩脊腰肢膝亦二

又其頭タル我朝ノ中ニテ隨一ノ高嶺ナル不二山故天地  
開闢ノ天御中主皇産靈ノ參神ノ分魂ノ御在所ナル故  
昔ヨリ在ス神カモ天ノ真柱國ノ鎮杯ト言ツタヘシニ  
まゝてし

# 亦天地冠ふ國土の根

本朝神社考ニ富士山八人皇

六代孝安天皇九十二年六月

涌出ニト云本朝通鑑ニ八七代孝靈天皇五年六月琵琶湖

ト一夜ニ生ゼシ杯イヘ臣詳ナズ古学家ニ此山ハ神代ヨリ有シ

所八重棚雲ノ隔居テ見エズ有シガ人王ノ世ニ成テ始テ頭レ

タリ伝萬葉集三ノ卷ニ山辺ノ赤人ノ長歌ニアタツチノワカレ

シ寸ユ神サビテ高ク尊キ駿河ナル不二ノ高峯ヲ天ノ原

云々ト有サレバ神代ヨリ有シト明瞭ナリ國土ノ柱ハ

二靈ノ立玉ヒシ天ノ御柱ナルベシ

# 又天下表々國治大行の奉之と有

皇國ハ日ノ本ツ國ナレハ

天下万国ノ人民ガ追々皇國へ靡キ隨ヒ參リ無上至尊ノ君ヲ仰キ

畏ミ我國ハ云モ更ニ天ガ下平カシ洛ル大行ノ大基ニト有トニ

# 五代尊師もいし垂示に其まきえし心服をいせむ

道祖ヨリ五代目ノ尊師ニテ寛文十一年正月十七日伊勢ノ

国市志郡元川上清水ノ上ニ御誕生幼名善太郎ト云十三才



ニテ父母ノ黒髪ヲ頂キ肌ノ守トシ東京へ登リ奉公ニ富  
 山甚左エ門ト改名十七才ノ時富士行者月行朝神師  
 ニ入後ニ呉服店ヲ開キ通称伊藤伊兵衛ト改メ御傳名食行  
 身禄ト戴キ専ラ御道ヲ勤メ家富榮エ五万八千兩ノ身上ニ  
 成玉ヒシ所天地ノ道理ヲ深ク悟リ世ノ為ニ苦行ヲ發心シ  
 金錢ヲ悉他人ニ施シ妻ト三人ノ娘ヲ連テ所々住居ヲ替苦  
 難貧窮ヲ常トシ御世振替リ法ノ改ルヲ前察シ玉ヒ  
 末代ノ為ニ御傳書ヲ遺シ享保十八年六月六十三才ニテ  
 妻子ヲ残シ世ノ為ニ不ニ北口七合五勺目烏帽子岩へ  
 籠リ三十一日断食室ノ中ニテ三通リノ御卷物ニ認メ置

七月十七日登天シ玉ヒシニ是皆道祖ノ御シメシニモトツキテ  
 悟リ玉ヒシトト心眼トハ面ノ目ニ見エ難キ色モ形モ  
 ナキ事ヲ觀貫又ハ未前ヲ察シ人ノ言ヲ聞面ヲ見テ  
 胸中ヲ悟リ善惡ヲ知ルノ類ヒニ

さね七千首は乃奇の中も

食行老師御難行ノ  
 中ニテ数多ノ歌ヲ詠

玉ヒシ其中ニ心決定ノ歌七十首アリ内三十六首抜テ柴田翁ノ  
 和解セラレシ書ノ中ノ二首ヲ左ニ挙テ表シタルニ

誠道ありし御代は必も成るに不<sup>レ</sup>二<sup>レ</sup>の

# と我々

誠トハ天命ニ違ハズ私欲名聞ヲ放レ清ク正シキ

心ヲ云カナハ歎美ノ詞ニ後前ノ惡弊ヲ止ノ文明

御代ト改リ諸国ノ閑所モ悉ク御廢シ婦人モ安ク往來シ皇

國夷國ノ閑モ戸サズ貴賤上下ノ垣モ取レテ君モ庶民ノ家

ニ御休泊民ノ建白モ御採用隔ナキ御代ト改リ不二ノ裾原

ナル万国ノ人民皆仰ギ來ル目出度御代ニト云心ニ

後にもまの在交は不二の山がふま

先流もんを海を流し

教トハ道祖尊師ノ御遺訓ニ參神ノ分魂ノ在所ハ

不二ノ峯ニト有ハ常々コノ御山ヲ崇メ誠ノ心ニ願行スルハ

心ニ曇云リガ無キニ自カラ其身ニモ光リガ添フニトノ御諭シ哥ナリ

# 身祿世の復古

食行尊師ノ御傳書ニ元祿元年辰ノ六月十五日辰ノ一天ヨリミロクノ世ト成ルト

アリ弘法大師ノ遺訓其外ミロクノ世ノヲ演シ説多ク有是ハ弥勒

菩薩ト云佛ガ有テ守護スル御世杯ト云ハ甚心得違ヒニ

従前ハ諸大名御家人御用達杯ト先祖ヨリ傳ハリタル株式

家ニ産レシ人ハタトヘ愚痴不才デモ主人旦那ト敬ハレ福

祿モ備ハリ有タレ氏御一新以來諸株御廢シニテ旧習ノ

驕奢モ成難シ又下民ニテモ才智英明實直ナレバ出世

レテ身分丈ノ天禄ガ備ハルニ勉強次第身ニ禄ノ授ル  
ヲミロクト云フリカハリハ古キニ復ル一我国ハ素ヨリ  
神隨ノ道備リ有テ外ノ教ハ無ク氏誠一筋ヲ治リシ所  
儒道佛道ガ渡リ来テ却テ民心ヲ惑ハシ神ノ道ハ埋  
レ居タルヲ復古ノ御代ト成皇國ノ道再ビ明ニ顯ハル  
一ヲ言遺シ玉ヒシニ

# 御虫願

後前ハ願ヒ事モ取次ノ役人間ニテ隔妨ケ上  
へ貫カザリシガ今テハ平民ノ建白モ直ニ御聞  
濟神佛へ祈願スル一モ正直ニシテ天下ノ為ニ願フ一ナレ  
バ人ニ憚ル一ナク神へ直談ニ願フ一ヲ云

# 陰願の海

神祇へ願フ一モ人ノ愁ヲ慰ズ只我身ノ勝  
手ノミ願フ族ハ明白ニ他へ聞セガク咽ノ  
底ニテ密カニ願フ云主君へ願ヒ他人へ頼ム一モ都テ  
私欲邪ナル願ハ人ニ知セズ内密ニ願フヲ陰願ト云ニ

# 女網男怨杖繫ぎ罾

男女共ニ驕奢ノ風俗ニ移  
リテハ天道ノ清淨ナル御息ニ背クヲ以テ諸共ニ繫ギ  
替テ長ク泰平ノ御世ト成シ玉フ所ナリ網ト有故繫ギ  
替ト續ケシヲ男ト女ト交易ヤウニ思フノ間違ヒニ心ノ  
駒ノ手綱ヲ弛メズ短カクツナギ替タルノ一

# 四民同等杯の山傳を造りしを満じしあり

士農工商ハ東西南北ノ如ク何レモ勝リ劣リノナキ重  
職ニテ天下ニ無クテ叶ハヌ大業ニ然ルニ保元平治ノ頃  
ヨリ追々乱世打續キ国々合戦止ム氏ナク武士ノ權  
威益強ク農工商ノ三民ハ奴僕ノ如ク侮ラレ自  
然威勢ニ恐レテ下賤ニ陥リタレモ素ヨリ同等タル  
ベキ身分ナレバ終ニハ古ヘニ復ルベキヨシ參行老師  
ノ四民ノ卷ニ具ニ載ラレシモ五代尊師ノ百五十  
年前ニ悟リ言遺サレシ傳書ニヨレリ

かねて言ふ所ハ天が下此の氣應我亦天乃

## の道理を告

角行真人食行身祿ノ兩師匠ハ天天下ノ  
万民及我々ニ至マデ天地ノ道理ノ深キ

訳ヲ解和ゲテ脚告知ラセ下サレシト云フニ

## 時勢が変遷或示し給ふ

其時代々々ニ從ガヒ  
脚規則モ人氣風俗モ

總テ世ノ中ノ事ハ移リ替ル訳ヲ脚説示シ成サレシトニ

## 天津山祖衣神の御使あり

造化參神ハ人間ヲ  
シメ万物ヲ産ミ



事也

儒道ハ善キ教ナレバ終ニハ俗儒ノ記誦詞章ノ習採  
ニ凝テ教化ノ助ケニ成ズ佛道モ尊ケレド俗ヲ誑カス

方便説ハ世人ノ惑ヒト成又耶蕪宗邪教ノ妄説採ヲ信  
シ生涯ノ災ヲ釀ス基ナレバ猥ニ迷ヒ込ヌヤウニ我カ一心  
ニ鎖ヲ卸シ固ク結テ居度トトシ神道ヲ捨他教ヲ信  
ズルハ我父母ヲ廢テ他ノ親ニ仕フルニ同ジ

將のほごを神の心忠教を信するぬは寧行

社会に因ば法びぬは甲斐もは

將ハナホ又ト云  
義是程ニ元ノ

父母ノ深キ御恩ヲ受分魂及ツキヒク息衣ル物食物住  
居一切ノ恩頼ヲ日々有難ク崇メ尊フ此實行社ノ教會ニ  
仲間入シテ同社中ノ因縁ヲ結ビタル其甲斐ニハト云フ

我が父母の孝道を端とするのはいふも父あり

我身ヲ生ミ育テ下サレシ父母ノ御恩ハ言葉ニモ筆ニモ  
尽シカタクサレバ親ヘ孝行シカヨリ尽シテ養フナドハ子タル  
者ノ當然ノ一デ別ニ言フニハ及ハヌトシ

天朝を畏れ戴き奉り、奉令は威徳のひかり

天子様始メ皇后皇子皇族方ヲ恐敬ヒ泰平ノ御仁政ヲ崇メ  
載キ時々ノ御布令ニ背カズヨク遵ヒ守レト云フニ

### 朝敵

天朝ノ詔命ニ背キ国法ヲ犯ス反逆ヲ云昔平ノ將門純  
友頼時北条足利近クハ西郷桐野ガ如キ人ホニ

### 徒黨

大勢人数ヲ集メ惡事ヲ申合セ御法ヲ破リ族ヲ云天草  
一揆筑波天狗ノ輩百姓一揆杯ノ類ニ

### 暴動

手暴キ所為或ハ豪家杯へ押入強談ニ及ビ御一新  
前浮浪人等猥ニ金作メ世ヲ騒セシ類ニ

### 強訴

無理ナ事ヲ訴出御採用ナゲレハ言ヲ巧ミ理屈ヲ付  
押強ク願張正シキ御利解ヲモ聞入ザルヲ云

### 等々

右四廉ノ凶徒ホ有テモ猥リ組シ  
仲間ハナド決シラスベカラズトニ

### 強て幼兒の思ひを成

て思ふを成テ天子様を

### 父母と慕ひ懐きませ

惣ジテ万民ハ稚キ子童ノ  
心持テ恐多クモ天子様ヲ

我が實ノ父母ノゴトク常ニ意シタヒ暑キ日寒キ夜ニモ親ヲ  
思フヤウニナツカシミ朝夕蔭ナガラ拜礼スベキニ

### 御實祐延長四年出安穩を祈り天恩を乞

報

天津日嗣ノ長ク延ビ續キテ国モオダヤカニ  
治リ四民氏安ク業ヲ営ムヤウ神祇ハ祈リ

天地国土ノ大恩ヲ此モ報奉ルベシトニ

豫云此由垂示よ速をざるを師恩報答乃

同志といふは

豫言ハ前ニ説テアリ御示シ

ニ甚モ違ハヌヤウニ勤ル人等ハ

代々ノ御師匠方ノ御粉骨遊バサレタ厚キ御恩ヲ少ヅモ

報フ志シノ御弟子仲間ゾト云ニナリ

明治十三年十月廿一日御届

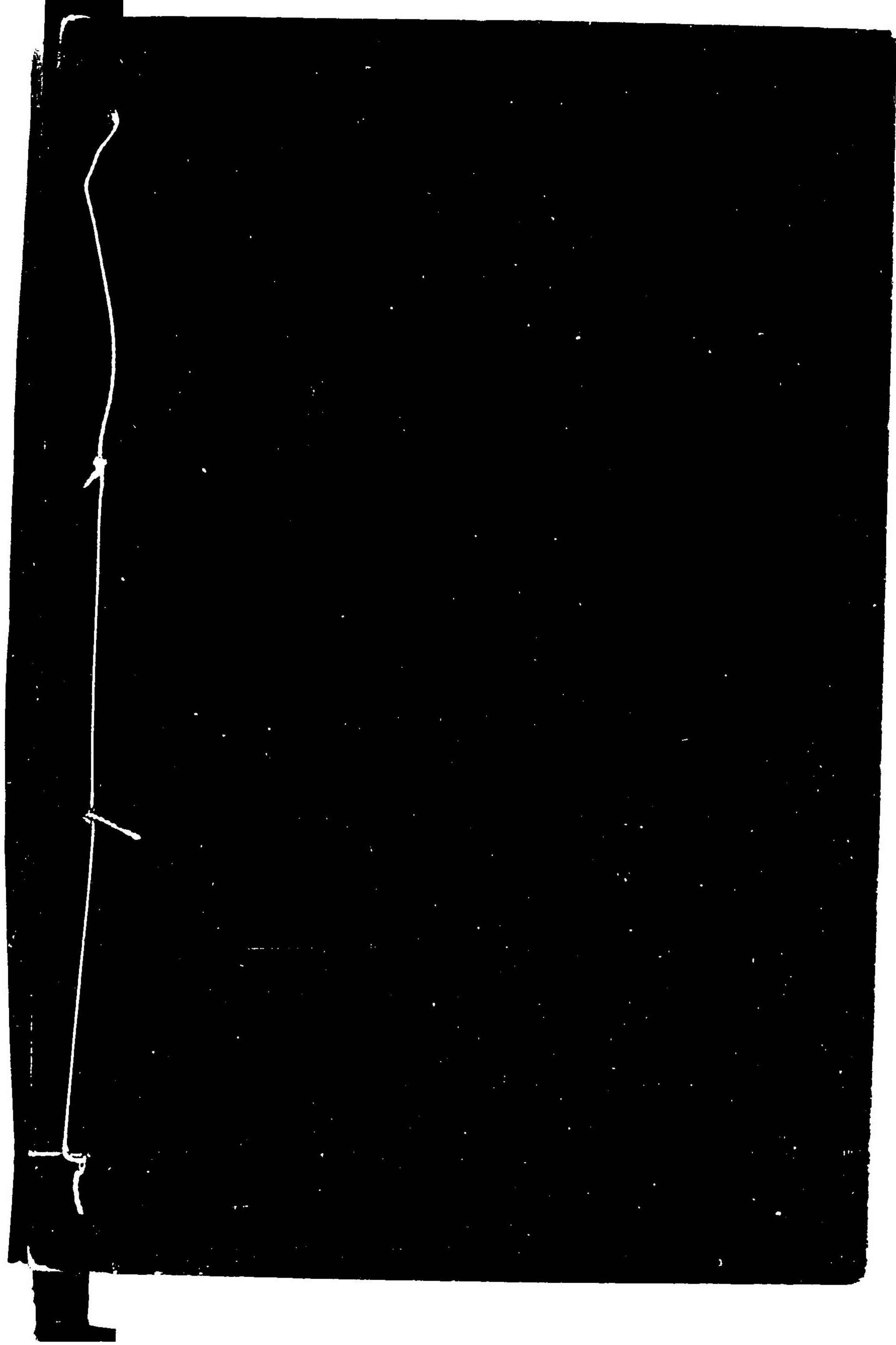
編輯兼出版人

嶋崎源兵衛

日本橋區通丁目六番地

四十八五





特36

東京圖書館

943

函六三門系

架一一部一

號類

013978-000-1

特36-943

敬信予言和解(御恩礼式御誕生祝言)

島崎 源兵衛/編

M13

ABB-0225

